

## 研究費総額の見直しについて (案)

プログラム・マネージャー (PM)	研究開発プログラムの主な見直し内容	上段：研究費総額の見直し内容
		下段：研究費総額の変更額(百万円)
佐野雄二PM 「ユビキタス・パワーレーザーによる安全・安心・長寿社会の実現」	レーザー加速XFEL実証において大きな進展が見られる要素技術の応用・製品化検討を前倒しする。また、超小型レーザーの製品化に向けた応用実証、低コスト化に取り組むとともに、ユーザー活用促進によるImpACT成果の普及を図る。	レーザー加速電子ビームの応用利用検討及びマイクロアンジュレータの製品化を増額により取り組む。また、超小型レーザーのユーザーによる応用実証推進、電源の小型化等の製品化に向けた取組を行うとともに、活用プラットフォームとして超小型レーザーを公設試に配備する。  3,270→3,530 (260増額)
佐橋政司PM 「無充電で長期間使用できる究極の工コIT機器の実現」	更なる低消費電力化が見込める電圧駆動MRAMに関して、要素技術開発（回路設計、書き込み方式）で世界トップレベルの性能を実証。成果を早期に企業へ橋渡しするため、要素技術を統合した実証評価を追加。	電圧駆動MRAMに関して、新たに考案した回路設計技術と一括書き込み処理技術の統合による集積回路チップの試作及び機能の実証のための予算を増額する。合わせて、組み立てプロセスの開発も行う。  4,286→4,386 (100増額)
田所諭PM 「タフ・ロボティクス・チャレンジ」	双腕型の建設ロボットについて、フィールド評価等を通じて各要素技術の統合化に目途が立ったことから、ロボットを新たに1台増産して2台とした上で、福島第一原発廃炉の模擬瓦礫片付け作業や、不整地走行、急傾斜地での作業にかかる試験等により、瓦礫除去や災害復旧工事に対する限界性能を調査し、出口展開を加速する。	新たに増産する双腕型の建設ロボットの本体及び遠隔操作システムの製作費並びに試験費等として予算を増額する。  3,500→3,600 (100増額)
山川義徳PM 「脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現」	脳情報産業の事業化検討を強化、加速するため、国際的な競争も見据えたMRIによる脳情報の取得能力規模の拡大を行い、ヘルスケアサービスの検証等のビジネスモデル研究に取り組む。	1500人/年規模の脳情報データを取得できるMRI撮像設備の拡充及び運用体制を構築のために増額（現状700人/年）。それを元に脳への長期介入効果の検証や介入効果を推定するアルゴリズムを開発し、ヘルスケアサービスへの展開を検証する。  3,000→3,280 (280増額)
原田博司PM 「社会リスクを低減する超ビッグデータプラットフォーム」	疾病・介護などの社会的リスクを高精度に予測するための医療ビッグデータ解析を行うヘルスセキュリティプロジェクトに関して、時系列で患者の健康状態を予見・先取する研究開発を強化する。（自治体等への解析サービス提供のためのシステム構築、医療・介護政策立案のための実証実験）	地域医療データを活用した医療ビッグデータ解析に関するシステム規模の拡大及びリスクシミュレータの構築、250世帯を対象に血圧や脈波等のセンシングをリアルタイムで行うための無線システムの実証規模の拡大（現状100世帯）及びリスクシミュレータの構築のために増額する。  1,500→2,030 (530増額)